

講師紹介



石黒 浩

大阪大学 栄誉教授
(大学院 基礎工学研究科システム創生専攻 教授)

1963年滋賀県生まれ。自分とは何か、人間とは何かという、解りそうで解らない疑問に支えられながら、ロボットの研究をしたり、芸術的な活動をしたりしてきた。自分そっくりの遠隔操作ロボット、ジェミノイドを作ったことで、その疑問はさらに深まったように思う。今後はだれもが遠隔操作ロボットやCGエージェントを使うような未来を実現したい。



松尾 豊

東京大学大学院 工学系研究科
人工物工学研究センター / 技術経営戦略学専攻 教授

1975年香川県生まれ。1996年に、学部4年で人工知能の研究室に配属されて以来、25年以上、人工知能の研究を行っている。博士を出て、最初に就職した産業技術総合研究所では、中島秀之センター長（当時）のもと、サイバーアシスト研究センターに勤務。その後、スタンフォード大学客員研究員を経て、現職。学生時代から、推論、自然言語処理、ウェブ等の研究を経て、現在は深層学習をベースにした世界モデル構築や記号処理との融合に興味を持つ。おそらく脳の大域的な仕組みが解明される日は近いのではと思っている。



松原 仁

東京大学大学院 情報理工学系研究科
附属情報理工学教育センター / 電子情報学専攻 教授
東京大学次世代知能科学研究センター 教授

1959年東京生まれ。その後北に流れてつくば経由で函館に20年間住んだが、現在は川崎という生涯の最南端で生息。一つのテーマに留まらないことをモットーにしていてAIの中でも他の人が手を出さない研究テーマが好きで将棋、囲碁、サッカー（ロボカップ）、小説生成などに手を出してきた。現在は人狼、カーリング、俳句生成などに手を出しつつある。

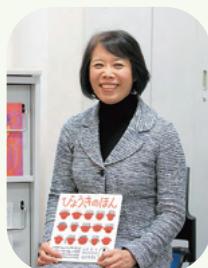
一方で最近はAIの社会実装にも興味を持ち、交通、漁業、画像認識などの応用に関わっている。常に新しい研究テーマを模索中。



中島 秀之

札幌市立大学 学長

1952年西宮生まれ。関西弁と関東弁のバイリンガル。その後東へ北へと流れて現在は札幌在住。学生時代からAIの研究を40年以上続けている。最近はデザイン学やサービス学にも色気を出しているが、特に次世代のモビリティ・サービスの実装に意欲を持っている。インターネットのモビリティ版となるようなプラットフォームを構築することを目指しているが、その一部は札幌で実現の予定。人だけではなく雪やゴミを効率よく運びたい。



松浦 和代

札幌市立大学 副学長・看護学部長
天使病院、札幌医科大学衛生短期大学部看護学科、旭川医科大学医学部看護学科を経て、
2006年8月より札幌市立大学看護学部。専門は、小児看護学。



齊藤 雅也

札幌市立大学 デザイン学部 教授

1970年三重県津市生まれ。幼少時、伊勢神宮そばの五十鈴川で泳いで育つ。柔道、アイスホッケーと当たりの強い競技が得意（元アイスホッケー国体千葉県代表）。専門は建築環境デザイン。札幌市円山動物園の動物たちの住処のデザインに手を抜け15年。また、ヒトの想像温度（いま、何°Cと思うか？）の研究に夢中で取り組んでいる。ヒト×AI=○○?を妄想中。



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY